片柳中学校だより

片　柳

第１号　　令和６年４月８日発行
さいたま市立片柳中学校
さいたま市見沼区大字御蔵５５１
ＴＥＬ０４８－６８３－３１７３

＜学校教育目標＞　夢をはぐくむ学校　○自ら学ぶ生徒　○心豊かな生徒　○心身を鍛える生徒

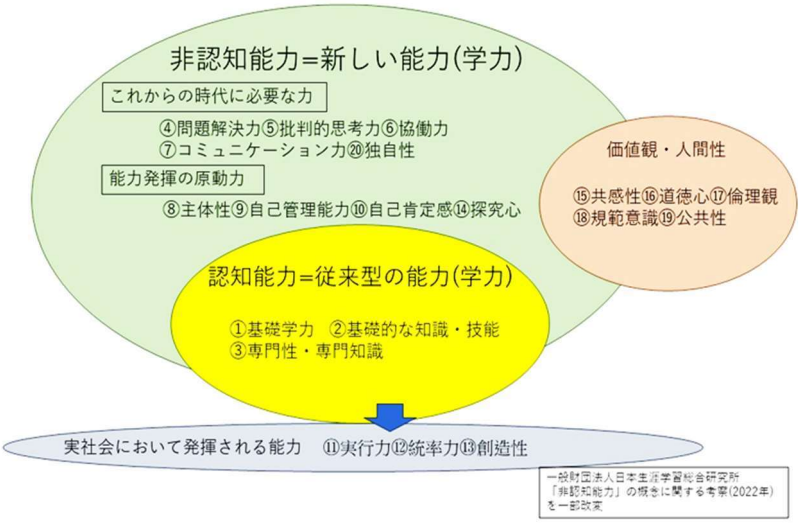
認知能力と非認知能力の育成

校長　加藤　明良

校庭の桜が満開の中、始業式、入学式が行われ令和６年度がスタートしました。この時期に桜の花が残っているのは何年ぶりのことでしょうか。やはり、満開の桜は入学式に相応しいと感じるのは私だけでしょうか。

さて、令和６年度の学校経営の重点として非認知能力も含めた真の学力の育成を掲げさせていただきました。今回は、非認知能力について説明します。認知能力とは、測ることのできる能力、例えば計算力、漢字や英単語の読み書き、重要な用語などが挙げられます。一般的には基礎学力とも言われています。一方非認知能力とは、やる気や頑張り具合、感動したり、他人に親切にしたり協力したりする、といったなかなか点数化して測ることができない能力のことです。さらに、読解力、表現力、物事を深く考える力などもある程度測定はできますが、人によってはこれらの力も非認知能力としています。認知能力と非認知能力ともに必要な力であり、学校生活のあらゆる場面で身についていくものだと考えます。

AI が進化し、難しい用語やある程度の専門的知識は全て AI が瞬時に教えてくれる時代になってきました。正解のある問題を限られた時間内で解く、いわゆるテストの意味が薄らいできているとも言えます。しかし基礎的な認知能力が不足していると、AI の出した答えが正しいのかどうかの判断もできません。中学校で学ぶ各教科の基礎的な知識・技能はとても大切です。と同時に、正解のない課題に対して、自分なりの考えや意見を出し、友達と協力してよりよい方向を導いていくことも大切です。例えば、よりよいクラスを作るには、合唱コンクールや体育祭を盛り上げるには、これも正解がない課題です。このような活動を通して非認知能力が高まっていくと考えます。実は AI を使いこなすためにも、非認知能力を高めていくことが必要だと言われています。学校は非認知能力を高める格好の場です。クラスや学年での友達との交流、委員会や部活での先輩、後輩との交流、地域ボランティアでの地域の大人との交流、未来くるワークや校外行事での社会の人たちとの交流等を通して、コミュニケーション力、協調性、やりぬく力、自尊感情など多くの非認知能力を身につけることができるはずです。認知能力と共に非認知能力も意識して人としての力を磨いてほしいと思います。



令和６年度も「地域から信頼され、地域とともに歩み、生徒、教職員一人ひとりの Well-Being が図れる学校」をめざし、教育活動に取り組んでまいります。保護者、地域の皆様のご理解とご協力をお願いいたします。